

経済活動再開で円相場は どうなる？

今 月のドル円は概ね横ばい圏で推移。新型コロナウイルス感染鈍化に伴う欧米での経済再開の動きを受け、リスクオンの円安が進む場面が散見されるほか、直近では日銀の新しい資金供給策導入観測が円売り材料になっている。ただし、一方で感染第2波への懸念やコロナ拡大の責任を巡る米中対立を受けたリスクオフの円高が入る場面もあり、方向感を欠いている。そもそも円もドルも共に安全通貨と見なされているうえ、金融政策も日米共に大きく緩和に傾いていることから、ドル円では大きな方向性が出にくくなっている。足元は107円台後半で推移している。

今後とも内外で経済活動の再開が続き、景気が回復に向かうと見込まれることはリスクオンの円売り材料となる。ただし、ワクチンの実用化には時間がかかるため、感染第2波への市場の警戒感が続くほか、米中対立が激化する可能性も高く、リスクオフの円買い圧力も想定される。3か月後の水準は現状並みと予想している。なお、仮に欧米で新型コロナウイルスの感染がぶり返せば、資金繰り懸念からドルを求める動きが再発し、ややドル高に振れると想定している。

ユーロ円は、今月に入り、独連邦憲法裁判所によるECB緩和策への一部違憲判断を受けて一旦ユーロ安に振れたが、リスクオンの円売りや独仏政府による復興基金案発表を受けて持ち直し、足元は118円近辺にある。今後は、ドル円同様、リスクオンの円売りとリスクオフの円買いがせめぎ合うが、復興を巡るEU内意思決定の足並みの乱れや、南欧の債務懸念によってユーロ安圧力が強まる場面も予想される。従って、3か月後の水準は現状比でやや円高ユーロ安と見ている。

長期金利は、景気対策に伴う国債増発方針が金利上昇圧力になる一方で、日銀の国債買い入れ増額が低下圧力となる形で0.0%付近での推移が続いており、足元も0.0%付近にある。今後も追加経済対策による国債増発が予想されるが、政府との協調姿勢を鮮明にしている日銀は金利の上昇を許容しないだろう。3か月後の水準は現状比で横ばい圏とみている。



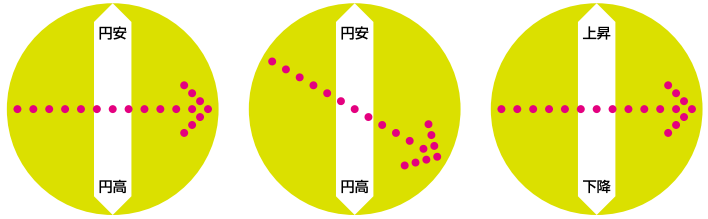
シニアエコノミスト **上野 剛志**
うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

1998年日本生命保険相互会社入社、
2001年同財務審査部配属、
2007年日本経済研究センターへ派遣、
2008年米シンクタンク The Conference Boardへ派遣、
2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。



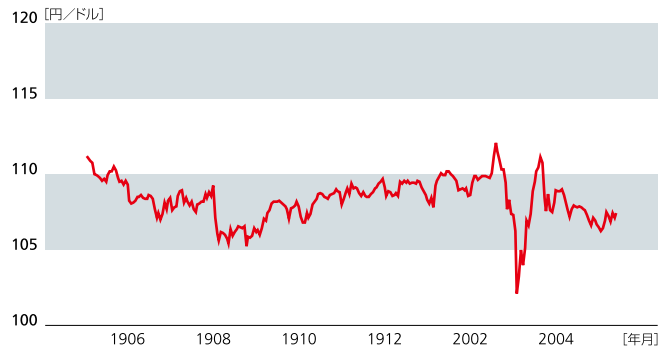
Market Karte

June 2020

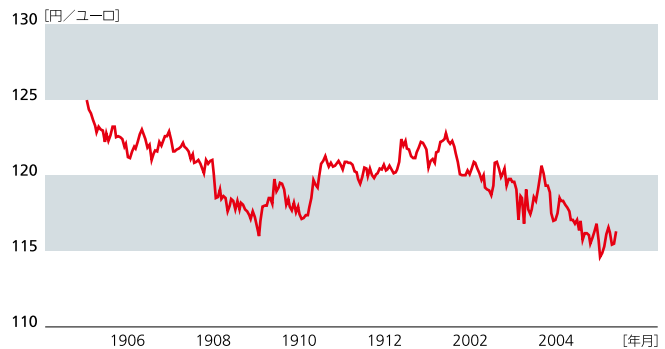


ドル円・3か月後の見通し ユーロ円・3か月後の見通し 長期金利・3か月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

